

ブドウ樹の自発休眠覚せい期について

高柳 行雄

(佐賀県果樹試験場)

TAKAYANAGI, Y.

On the Period Breaking of Dormancy on Grapevines.

ブドウのビニール・ハウス栽培における、被覆加温処理の開始は、樹体の自発休眠との関係において決定されるべきものと考えられる。そのため、自然状態下での、本県におけるブドウ主要品種の自発休眠覚せい時期を明らかにしておく必要から、芽の加温処理開始時期と、催芽ならびに展葉との関係について検討を行なったので、その結果を報告する。

(1) 材料および方法

当試験場に栽植されている8年生のキャンベル・アーリー、および巨峰、の2品種について、各品種3樹を用い、1971年1月10日より3月3日まで、10日ごとに、各樹より20本の結果母枝を任意に選定し、いずれも第5節目の芽を切りとり、水盤上に水挿しを行なった。加温処理は20℃にセットされた。コイト・トロン室内に挿芽した水盤を入れて行なった。

(2) 試験結果および考察

(1) 加温処理開始より、催芽始めに至るまでの所要日数についてみると、キャンベル・アーリー、巨峰、の両品種とも、2月10日処理のものまでは、処理時期がおそくなるにしたがって短縮されており、2月10日処理は両品種とも処理開始から5日で催芽を始めた。その後再び、所要日数が長くなり、3月3日処理では15日前後を要するようになった。

(2) 催芽始めより、80%催芽が揃うまでに要する

期間については、キャンベル・アーリーでは1月30日まで、巨峰では2月10日処理までは所要日数が短縮され、キャンベル・アーリーで4日、巨峰で2日であった。しかし、その直後に両品種とも、催芽が不揃いとなる現象がみられた。

(3) 展葉にいたるまでの所要日数については、キャンベル・アーリーでは、催芽とほぼ同じ傾向を示し、2月10日処理までは、所要日数が短くなったが、催芽ほど顕著な差は見られない。

巨峰では、1月10日処理のものが特に長日時を要したほかは、処理時期に大きな差は認められず、処理開始より29日前後で展葉が始まった。

(4) 展葉始めより、80%展葉揃いまでの所要日数では、両品種とも、早期の処理のものがやや短かいようであるが、そのほかはほぼ一定の期日を要しており、催芽においてみられたような、処理時期による大きな差、および、一時的にみられた遅延現象はみられなかった。

(5) 1月中に処理されたものも大体2月10日前後より催芽を始めること。また、2月10日処理のものに催芽始めまでの最短日数があることなどから、本県における、キャンベル・アーリー、および巨峰の自発休眠覚せい期は2月10日前後にあることがほぼ推察された。

第1表 加温処理開始時期とキャンベル・アーリーの催芽と展葉

処理時期	催芽始め	所要日数	80%催芽日	所要日数	展葉始め	所要日数	80%展葉日	所要日数
1月10日	2月3日	24日	2月12日	33日	2月10日	31日	2月22日	43日
1・20	2・10	21	2・17	28	2・20	31	2・26	37
1・30	2・11	12	2・15	16	2・25	26	3・8	37
2・10	2・15	5	3・5	23	3・5	23	3・19	37
2・20	3・4	12	3・18	26	3・19	27	3・29	37
3・3	3・17	14	3・24	21	3・27	24	4・9	37

第2表 加温処理開始時期と巨峰の催芽と展葉

処理時期	催芽始め	所要日数	80%催芽日	所要日数	展葉始め	所要日数	80%展葉日	所要日数
1月10日	2月8日	29日	2月13日	34日	2月15日	36日	2月20日	41日
1・20	2・10	21	2・15	26	2・17	28	2・23	34
1・30	2・12	13	2・16	17	2・27	28	3・8	37
2・10	2・15	5	2・17	7	3・13	31	3・24	42
2・20	2・28	8	3・16	24	3・21	29	3・30	38
3・3	3・18	15	3・23	20	3・28	25	4・7	35